



IUFRO-J NEWS

No. 62 (1997.10) —

アジア・太平洋地域林業研究機関連合 (APAFRI)

総 会 報 告

森林総合研究所 大 貫 仁 人

はじめに

本年3月25日～28日、ヴェトナム・ホーチミン市において、アジア・太平洋地域林業研究機関場所長会議/アジア・太平洋地域林業研究機関連合 (APAFRI) 総会合同会議が開催された。

前者の会議は FORSPA 活動の一環であったが、APAFRI 会員機関代表者の多くが前者の会議出席者と重複するため、合同会議として開催された。

ここでは、今後 IUFRO-J 会員機関諸兄に積極的に加入をお願いしたい APAFRI 総会について報告する。

APAFRI の現状

APAFRI は林業研究に関する科学技術情報の交換、研究・訓練プログラムの促進、国・地域・国際研究機関相互の連携強化を目的として、1995年の設立以来、FORSPA の協力を得て、会員の加入促進に努めてきた結果、本年3月末現在 20 ヶ国 34 機関が加入している。日本からは、森林総合研究所のみが加入している。

APAFRI 設立から今回の総会開催に至る経緯については、IUFRO-J News No. 60 (1997.2) に掲載された池田俊彌 APAFRI 実行委員の報告を参照されたい。

APAFRI 総会

合同会議には、アジア・太平洋地域 19 ヶ国の林業研究機関、米国、カナダ、オランダ、および CIFOR、IUFRO、FAO、CABI、INBAR、Tropenbos 等国际機関

の代表が出席した。

APAFRI 総会は、Dr. Suree Bhumibhamon 議長 (タイ・カセサート大学) による挨拶の後、これまでの実行委員会の活動報告があり了承された。そして、① IUFRO との連携、② 会則の変更、③ 実行委員の選出、④ 会員の加入促進方策、⑤ APAFRI のシンボルマーク、⑥ APAFRI 中期計画と 1997 年活動計画について、1996 年 11 月の実行委員会に取りまとめられた方針がほぼ了承された。

① については、APAFRI の活動強化するために、各国研究機関との連携に加えて、CGIAR を初めとする国際機関との連携が重要であり、中でも、IUFRO との連携強化が必要であるとのことから、APAFRI を IUFRO の地域組織と位置づける議論が 1995 年の APAFRI 設立当初から行われてきた。総会に出席した IUFRO 会長が、IUFRO 事務局としては原則的に、APAFRI が IUFRO の地域組織として認知/承認していくことに同意しており、そのために IUFRO の規約を整備していくことを約束した。

② については、APAFRI 設立時に定められた「会則」11 条によれば、実行委員の任期は、総会後の 1 月 1 日から 12 月 31 日までとなっており、1997 年 3 月の総会で実行委員が選出されても、1998 年 1 月 1 日からしか実行委員としての活動ができないという不都合を生ずる。また、この 11 条では、委員の選出について、議長を除いては再選を禁じているが、組織運営の継続性を考えると、特に、

設立間もない最初の段階では問題は大きい。このような問題を解決するため、○実行委員の構成については、半数を改選し、半数は継続し、前期の議長は、委員として残留する(IUFROと同じシステム)こと、○実行委員の任期については、総会開催日の翌月の1日から、次の総会の開催月の月末までとするとの趣旨の変更が提案され、了承された。

③については、会則の修正が承認された後、実行委員の選出が行われ、次のような新執行体制が確立した。任期は3年後の総会までとなる。日本からは、池田俊彌氏(森林総合研究所海外研究協力官)が再選され、引き続き

APAFRI 実行委員会 (1997-2000) 名簿

議長: Dr. Sallel M.N. (Malaysia)
副議長: Dr. Lucrecio L. Rebugio (Philippines)
前議長: Dr. Suree Bhumibhamon (Thailand)*
委員: Dr. B.N. Gupta (India)
Dr. Toshiya Ikeda (Japan)*
Dr. Glen Kile (Australia)
Dr. Zhang Shougong (R.P. China)
事務局: Dr. Kamis Awang (Malaysia)*

*: 再選



写真-1 APAFRI 新実行委員会メンバー

右から, Dr. Lucrecio, 筆者, Dr. Kile,
Dr. Suree (前会長), Dr. Sallel (会長),
Dr. Zhang, Dr. Gupta, Dr. Kamis,
Dr. Nair (FORSPA 事務局)

頑張って頂くこととなった。

④については、強力な会員組織を作り上げることが APAFRI の活動を活発にするためにも優先すべき課題であり、総会では、2000 年までに 100 機関の加入を目標に実行委員はもとより会員機関自らも加入促進に努力していくことが確認された。

⑤については、APAFRI と FORSPA がこれまで共同的に用いてきたシンボルマーク (原色は緑色) については、APAFRI のシンボルマークとして独占的に使用し、FORSPA では用いないことを FORSPA が同意した。

⑥については、特に、○Workshop on Tropical Acacia を ACIAR と共催すること、○地域内の林業研究の現状を冊子体として取りまとめること、○若手研究者の優秀な研究論文に対して「Rao 賞」を授与すること、○研究成果の実用化成功例集を作成すること、○TREELINK プロジェクトとの連携を推進すること、○データベース (研究・訓練機関の名称、所在地、窓口、研究 (業務) 分野、研究 (訓練) 計画) の構築と更新に努力すること、○APAFRI の活動基盤を強化するため資金提供者等を確保し、5 年間に US\$100 万を確保できるよう努力すること等が強調された。

今回の総会で、会長に Dr. Sallel, 事務局に Dr. Kamis が就任したのに伴い、「事務局体制の明確化と充実」のため、事務局をタイ・バンコック市: FAO アジア・太平洋地域事務所 (FAO-RAPA) からマレーシア・クアラルンプール市: Universiti Putra Malaysia (UPM) 林学部内に移転することに決定した。



図-1 APAFRI のシンボルマーク (原色は緑色)

(IUFRO-J 事務局からの補足)

APAFRI, FORSPA に関する情報はインターネット (<http://iufro.boku.ac.at/iufro/asiapacific>) でご覧になれます。

APAFRI への加入等のお問い合わせは、池田俊彌 APAFRI 実行委員 (森林総研 海外研究協力官) または IUFRO-J 事務局 (森林総研 海外研究協力室) へお願いいたします。

IUFRO 第5部会大会に参加して

九州大学農学部 森 田 光 博

ユフロ第5部会の全体会議はワシントン州立大学において去る7月7日から12日にわたり6日間の日程で開催されました。この会議はユフロ世界大会の中間の年に毎回開催され、前回は1992年にフランスのナンシーで開催されました。

ワシントン州立大学のあるブルマンはシアトルの東約285マイルに位置し、小型飛行機で約1時間30分程度要するアイダホ州に近接した地域にあります。典型的なアメリカの大学町の様相を呈し、人口の大半が大学関係者ではないかと思われます。大学は8学部と大学院に約22,000人の学生、教職員が在籍しています。夏期休暇中であることから短期の語学研修プログラムに参加している日本人も見かけられました。大学のキャンパスはいかにもアメリカの農村地帯を思わせる緩やかな丘陵の草原に建物が点在する閑静な地域にあります。



写真-1 会場となったブルマン市（藤井智之氏提供）

プログラムやその他の資料を読み返すと、実際の大会参加者は43ヶ国から222名であり、そのうち日本からは18名と開催国であるアメリカの78名に次で多いものでした。これは日本人の研究活動の活発な様子を物語るものと思われます。（ちなみに3番めはカナダおよび台湾の11名でした）。また、タンザニア、カメルーン、ケニア、シラレオーネなどのアフリカ諸国やブラジル、コスタリカなど中南米地域、タイ、インドネシア、マレーシアなど東南アジア地域からの出席者も多く見られ、この会議の幅広さとテーマに対する切実な様子が感じられました。

今回の会議のテーマは現在全世界で緊急な課題となっている“Forest Products for Sustainable Forestry”でした。プログラムはこのテーマのセッションのほか、31のセッショングループとして開催されました。当初プログラムによる11頭発表は208件、ポスター発表は47件と総数250件をオーバーする多数でした。しかし、発表のキャンセルが相次ぎ、発表予定は当日配布される日程表によらねばわからない状態で終始したので、実際の発表件数は正確に把握することができませんでした。

大会の初日は大会委員長のT. Maloney教授（ワシントン州立大学名誉教授）による開会宣言、民族衣装を身にまとったNative Americanのネズパース族の人たちによる歓迎儀式により始まりました。基調講演としては、J. Pinkham氏によるNative Americanからみた地域社会と天然資源について、フランス政府農林省のC. Barthod氏が行政の面から持続的森林経営と木材市場について、また、ウェアハウザー社のN. Johnson博士は企業人の立場から木材製品と他材料製品との競合について講演されました。さらに、富田文一郎教授（筑波大学）はエコマテリアルとしての木材に関連する最近の日本における研究動向を紹介すると共に同教授が会長である日本木材学会の活動内容についても言及しました。

グループセッションは大会2日目より、7～8会場に分かれ、同時に進行しました。研究の概要を述べた講演が多く、深い論議には至らないものが多数見受けられました。しかし、専門外の分野の現在の状況を知るには都合の良いものでした。また、各セッションの発表件数からみると年輪解析の分野が多くこの分野での研究の活発な様子がうかがえます（オーラル発表23件、ポスター発表12件）。

また、新たに開かれたワーキンググループの“Sustainable Forestry”にはUSDA Forest Serviceの研究副部長であるB. Weber女史が持続的な森林経営を支える上でのアメリカ政府の立場からの経験を述べた。このほかセッションではインド、中南米、ドイツなど各国の研究者がそれぞれの研究領域の立場からの討論をおこないました。

ポスターセッションでは、樹木の肥大成長と形成層内の電位のモニタリング機器や画像解析機器の紹介、大豆

を接着剤の増量剤として利用する研究、圧縮木材を固定するための蒸気前処理についての研究など興味ある発表もみられました。しかし、4コマにわたるポスターセッションもまたキャンセルが多く、いつまでも同じ発表が展示されていたのや、まったくポスターの展示のない時間帯もみられました。



写真-2 ポスターセッション会場（藤井智之氏提供）

大会3日目の午後にはインコンファレンスツアーが開催された。バスで出発する時には曇った状態でしたが、Lewiston 峠に着くころには大雨となり、眼下に望まれるはずの Lewiston の町や川は雲に完全に隠され、峠を途中まで下って、製紙会社の煙突の煙がはじめて見える状態でした。

この Lewiston の町の外れにある樹木園の見学では、品種改良されたポプラの木は6年で30 cm 程度の太さにまで生長し、パルプ用材として利用されるとのことでした。マツ、木の幹には西日を避けるために塗料が塗られていたのが印象に残っています。雨の中での見学ではありましたが、数年で大きな樹形にまで育つ様子を見ると育種の研究の進歩の一端が感じられた思いでした。

見学の最後には Nez Perce National Historical Park のビジターセンターを訪れました。誇り高い Native

American ネズパース族の歴史、生活の様子を紹介したビデオの鑑賞や民族衣装などの展示を見学しました。この公園の野外でバーベキューパーティーが開かれました。あいにくの雨中でのこと、雨に濡れる、開始時間が遅れるなど、これまで筆者が出席したどの国際学会のパーティーよりも印象に残るものとなりました。

大会初日と最終日にはそれぞれ Welcome パーティーおよび Farewell パーティーが発表会場と同じ建物で開催されました。開催当日は好天に恵まれ、会場のテラスからは大学の建物群やフットボールの競技場、遠くには緑の丘が望まれ、この丘に暮れなずむ夕日はまことに美しいものでした。ワシントン州は各種のワインやビールの産地であることからこれらを賞味することができ、多いに和みました。これらのパーティーでは提供されるオードブルへの興味とともに、未知の研究者との交流ができる楽しい機会でもあります。摩砕リグニン (MWL) の調製法を確立したことで有名な Björkman 教授のユーモアあふれるあいさつもありました。いかにも陽気なアメリカ人がリードするパーティーであることを示すかのよう、Farewell パーティーでは各国の研究者および同伴者が輪になったフォークダンスが延々と続けられました。

筆者は今回はじめてこの会議に参加して、主として木材利用の面から持続的な森林経営に対する各国の研究者の取り組みの様子が感じられました。しかし、会議への参加中止が多かったことや、各分野でより深い内容の発表、討議が少なかったのは残念な点です。

来年10月には日本(宮崎市)で今回のテーマに近い内容の国際シンポジウム "International Symposium on Global Concerns for Forest Resource Utilization — Sustainable Use & Management—" の開催が予定されています。この会議が成功することを願いつつ、これらを通じて木材学のさらなる発展を期待します。

第9回国際根株腐朽病研究集会に参加して

森林総合研究所 長谷川 絵 里

1997年9月1日から7日間に渡り、フランスはボルドー近郊のカルカンで、The 9th International Conference on Root and Butt Rots (Working Party 7, 02, 01) が開催された。事務局発行の名簿によると、世界からの参加者93名のうち、日本からは私を含め8人が参加した。この国際集会の模様を報告したい。

1. 開催地カルカン

カルカンは大西洋岸にあり、近郊の大都市であるボルドーからの公共交通機関がなく、大会前日の夕方にボルドー空港と駅からの事務局貸し切りバスで運んでもらう。空港から1時間ほどで着いたが、そこは見渡す限りのマツ林の中に、バンガローが点在する避暑地だった。海から4キロとのことなので海岸林かと思ったら、ボルドーから南の一角はマリタイムパイン (Pinus pinaster) の大造林地帯なのだという。バンガロー1軒には独立したツインが4つ入る。ここで寝泊まりしながら、集会は同じ敷地内のセミナールームで、食事は食堂でスモークスボード (バイキング) 形式、夕食後は敷地内のバーでビールやコーヒーを、という生活を送ることになった。



写真-1 マツ林の中のバンガロー

2. ポスターセッション

邦人参加者は皆ポスター発表だった。ポスタールームは10畳ほどの部屋が2部屋あり、鉄か木の枠がパネルよろしく置いてあるのを利用する。壁を割り当てられた人もいる。よく見ると壁に貼られた発表番号の間隔がそれぞれ違う。仕方がないので発表番号そのものを適当にずらして貼り直し、場所を確保してからポスターを貼る人もいた。枠の方も事前に発表された大きさとは違い、高さが足りなくて苦労する人もいた。フランスはラテンだと実感。いずれにせよ、B2やA1などの大判の紙1枚に打ち出したポスターをロールにして持ってきた人は貼るのが楽そうだった。

到着後配られた予定表で確認すると、ポスターセッションは初日と4日目の午後8時半からとなっている。随分遅いと思ったら案の定、夕食後にバーで一杯注文した人々がそのままポスター会場にやってきて、グラス片手に話し込むという大変楽しい展開になった。

3. 口頭発表

口頭発表は6つのセッション (遺伝、疫学、生態、病原性、モデリング、防除) の計48課題を4日半で消化する密度の濃いものだった。質疑応答含め1課題30分と時間も長く、熱気溢れる議論が行われた。発表のほとんどがならたけ病とマツノネクシタケによる腐朽病を題材としたものであり、これらがいかに広く分布し問題となっているか、改めて認識させられた。様々な発表があったが、研究方法としては、私には特にLung-Escarment博士の、感染部位での酵素活性を調べるものが興味深かった。

4. フィールドトリップ

フィールド見学は半日と1日の2回行われた。半日フィールド見学は、ボルドー近郊のならたけ病に侵されたワイン用ブドウ畑とマリタイムパイン造林地であった。これらはそれぞれ、今回事務局を務められたフランスのGuillaumin博士と、同じくフランスのLung-Escarment博士の研究フィールドである。参加者は枯れかかった木を見つけては群がり、掘り返しても

らった根のナラタケが感染した部位に向けて一斉にシャッターを切っていた。フィールド見学のあとは、キルワンというワインシャトーでご当主からワイン作りについて説明を伺った後、ワイン試飲と即売会、そして3種のワイン付きのフルコースディナーに舌鼓を打った。さすがボルドーのメドック地区、ワインの本場である。



写真-2 ナラタケの感染したブドウの根の写真を撮る参加者達

1日フィールド見学は、バスに乗って3時間、フランス南部をほとんど横断してピレネーの裾野トゥールーズ近郊のマツノネクチタケによる根腐病を目指す大旅行である。こちらではフランスの森林衛生局のフォレストーの方が（もちろん英語で）説明を下された。

その後 *Collybia fusipes* というモリノカレバタケ属

のきのこが起こすナラ（主に *Quercus rubra*）の根腐病の病害地にも見学に行った。ここで説明をされたのは今回の事務局の責任者、Delatour 博士。ナラタケにも負けない太い根状菌糸束が印象的であった。

帰り道、幹線沿いのカフェテリアで各自好きなものをもって夕食となった。カフェテリアの横に大きなスーパーマーケットがあるので寄ってみたが、本のコーナーできのこの本を売っている。図鑑から料理の本まで10種類くらいあって迷ったが、2冊を選んで買った。同じバスに乗り合わせた Delatour 博士が *C. fusipes* の欄をチェックして、「大きな間違いはなし」と保証してくださった。同博士によれば、フランスでは毎年何冊ものきのこの図鑑が出るとのこと。割と詳しいと思って買った図鑑の後ろを見たら、きれいな写真入りで料理の作り方が載っていた。食への関心もきのこの本の出版の原動力に違いない。

5. 次回へ向けて

最終日には総合討論のあと、次の2001年の開催地をカナダのケベックシティと決めて、集会はお開きとなった。期間中、Delatour 博士を始めフランスのスタッフは実にこまめによく働いていらした。この場を借りて感謝したい。

次のケベックでは紅葉シーズンに集会が行われるそうだ。次回も参加してみたい。

会費納入・研究者登録のお願い

IUFRO-Jの活動は会費収入で運営されております。健全な会の運営のために、会費納入をお願いいたします。

A、B会員におかれましては、会費納入と合わせて研究者（会則第5条）、連絡員（付則1）の登録（事務局への連絡）をお願いいたします。

納入方法

郵便局振込の場合

郵便振替口座：00190-3-159224

名 義：IUFRO-J事務局

銀行振込の場合

関東銀行牛久支店 普通預金口座 697583

名 義：IUFRO-J事務局 大貫仁人

注意：-（ハイフン）をお忘れなく

事務局としては、できるだけ郵便振替を利用いただけると助かります。

ユフロ第35回理事会が南アフリカ、第36回理事会が イタリアで開催

東京大学大学院農学生命科学研究科 鈴木 和 夫

第35回ユフロ理事会が平成8年12月に南アフリカで、第36回理事会が平成9年9月にイタリアで開催された。いずれも、日本からは佐々恭二氏（京大防災研）と鈴木が出席したので、併せて、その様子を紹介してみたい。

第35回理事会

第35回理事会は、平成8年12月6日から13日までの日程で南アフリカ共和国で開催された。日程では、マラリア汚染地クルーガー国立公園でのエクスカージョンが組まれていたことから、渡航前にクロロキンとバルドリンの服用を強く勧められていた。マラリア感染についての下調べから予防に徹しようと考えていた私は薬を服用しない予定でいたが、ホテルに着くなり事務局に説得されて忽ち服用することとなった。ヨーロッパからの参加者は自国で薬が入手できることもあって殆ど服用しているようであった。

南アフリカでの会議の日程はユニークなものであった。本会議前半に開かれるPC (Programme Committee) およびAC (Administration Committee) ミーティングを、首都プレトリアで12月6日と7日に開催。7日午後6時から大型バスに乗り込みプレトリアを出発、9日までの3日間をフォレスト・ツアーと称してクルーガー国立公園までの途中に分散する森林を見学するというものであった。そして、10日は、午前4時起床、4時半出発、クルーガー国立公園での終日をゲーム・ドライブに当てていた。本会議は11日と12日の両日、サビエという美しい国立公園近くの別荘地（ホテル）で予定され、翌13日早朝に解散して、500キロ離れたヨハネスブルグ空港へ向かうというものであった。

12月6日に成田を出発して、シンガポール経由でヨハネスブルグに同日の午前5時半到着。空港から車でプレトリアのホテルに午前7時着。8時には皆と合流してCSIR (Council of Scientific and Industrial Research) の会議場に出発。8時半、PC ミーティング開始である。美人スチュワーデスの噂の高いシンガポール航空を利用したのヨハネスブルグまでのアクセスはとても便利で

あったが、少々裕りがない上に、クロロキンとバルドリンを飲まされたこともあって、次回からは日程をもう少し工夫しようなどと考え始めていた。

PC ミーティングの主たる話題は、2,000年にマレーシアで開かれる世界大会の運営方法とユフロの名称変更の問題である。世界大会の目的は、participation, presentation, publicationの3つの目標が達せられることにある。従って、general assemblyとscientific presentationとを区別する必要がある、などの議論が活発に行われた。このことは、ポスター発表と口頭発表の演題数を如何にするかにかかってくる。因みに、モントリオール大会の発表論文数は、論文、ポスターそれぞれ611編、263編であったものが、タンペレ大会では1,060編、291編と急増している。会議の初日は、隣のカルノスキー (Div. 7 コーディネーター) に度々揺り起こされた。多分、時差の関係か、薬の関係か、転た寝していたのであろう。

午後6時半からは、大臣主催のレセプションがあり、博士の称号をもつ大臣の演説は、1994年に初めて全人種参加の総選挙が行われたマンデラ大統領の話に始まり、優に1時間は超えた。バーレー会長はレセプションで私を大臣に紹介するなどいつも気配りを忘れない。ウィーンでは旧知の如く迎えてくれたり、「この提案に反対の者は後で私の部屋まで来てくれ」など、人間的に暖かな人柄が感じられる。

9日夕方には、お目当てのクルーガー国立公園の拠点スククーザに到着した。国立公園は南アフリカの北東部に位置するマラリアの汚染地域で、毎年（主として2月から5月まで）300人以上が感染している。2万平方キロという四国に匹敵する広さの国立公園（南北350km、東西60km）は、乗用車あるいはバス以外で観光することはできない。国立公園の一部（写真-1）を紹介して、当地に一度見えられ雰囲気味わわれることをお勧めする。

本会議は11日と12日に開かれた。理事会での主要課題を示すと以下の通りである。

1) 部会コーディネーターからの部会活動報告。



写真-1 クルーガー国立公園のキャンプとワイルド・ライフ

2) 各地域から選出された理事からの地域活動報告。
3) 会費の滞納と退会：わが国からは、三菱化学工業と茨城県林業技術センターの滞納（退会）が議題とされ、バーレー会長から何とか慰留できないかとの要請を受けた。

4) 世界大会：本会議に途中から参加して世界大会の準備状況について説明したニック（マレーシア COC (Congress Organizing Committee) 議長）は、2000 年世界大会の参加費を US\$500 にしたい旨提案。会議では、モンテリオールでは US\$300、タンペレ大会では US\$400 であって、参加費が高過ぎるとの意見続出。

5) ユフロの名称：時代の流れを受けて IUFRO の名称を International Union of Forestry Research Organization を International Union of Forest Research Organization と変更するというものである。賛成 15、反対 0 で可決。ただし、英語の Forestry を Forest にすると、ドイツ語では Forst と Wald の議論が出てくる由。なお、この採決は、中国と韓国の理事が反対でありながら挙手しなかったことがコーヒープレイク中に分かり、再会直後に再度採決がなされた。その結果、賛否は 15 対 2 に変更された。

ニックが帰った後の 12 日の理事会では、世界大会についての議論が加熱して、マレーシアのやり方がずさんであるとの指摘が多かった。すなわち、マレーシアの提案は世界大会の運営にお金をかけ過ぎるというものであった。

南アフリカの治安は良くない。キャシー（台湾）はヨハネスブルグ空港で到着早々パスポートと現金など全てを失い、バンキュラ（チェコスロバキア）とユンキスト夫人（米国）はプレトリアとヨハネスブルグでそれぞれ刃物を首に突きつけられてとても恐ろしかったと身振り

を交えて話してくれた。レディース・プログラムに参加した夫人達も市内観光ではバスを降りなかったという。それにしてもクルーガー国立公園の広大さとその自然を脳裏に刻んで、ヨハネスブルグ空港を後にした。

第 36 回理事会

第 36 回理事会は、平成 9 年 9 月 16 日から 22 日までの日程で、イタリアのローマにある FAO (国連食糧農業機関) を会場として開かれた（写真-2）。例によって、本会議に先立って PC 及び AC ミーティングが 16 日と 17 日に開催された。従来、これらの委員会の座長は、副会長が務めている。今年、副会長の一人セスコが USDA Forest Service 内の移動によって副会長を続けることが困難となった。そこで、ホイットモア (Div. 1 のコーディネーター) が副会長に選ばれ、AC ミーティングの座長を務めることとなった。Div. 1 コーディネーターの後任には、デビティ・コーディネーターのリサが投票によって選出された。例によって前日夜遅く到着し、翌早朝からの会議には相変わらず戸惑いがある。PC 会議の冒頭、何やら私を祝う祝辞が述べられたようであった。実は、昨日は私の誕生日で、それを祝ってくれたのだった。この種のセレモニーには不慣れであるが、タンペレの世界大会の折りに、開場前にセベラ（副会長）が花束をもち事務局員の誕生日を祝していた光景を思い出した。

PC 会議の主要な課題は、前回と同様、2000 年の世界大会の運営とタスク・ホースであった。タスク・ホース・レポートには、Internet Resources, Forests in Sustainable Mountain Development, Forests and Environmental Change, Sustainable Forestry, International Relations などがある。

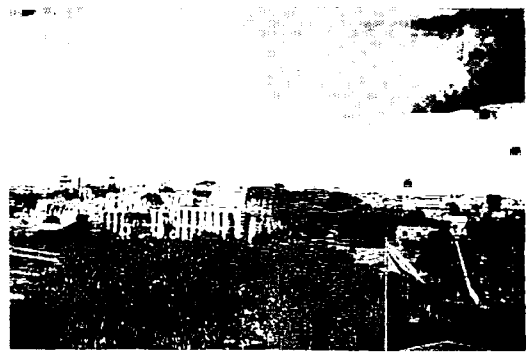


写真-2 FAOとFAO屋上から見たローマの景観

本会議は18日と19日に開かれた。まず、ハチャリック (FAO 林業部門の長) がFAOとイタリア政府を代表して歓迎の意を述べた。本会議はバーレー会長が座長となり、次のような手順で進められた。開会、第35回理事会議事録の承認、各活動報告 (会長、副会長、会計、事務局、部会、地域、タスクホース、SylvaVoc、指名理事、地域理事、特別委員会、表彰委員会、PC委員会、AC委員会、SPDC)、予算、出版物、2000年世界大会、今後の会議予定、などである。また、ハチャリックによるFAOの紹介 (State of the World Forest 1997) と、名誉会員モランディニ (イタリア) によるイタリアの森林についての紹介も準備されていた。

私共に関心のある項目を記すと以下の通りである。

1) ユフロ名称について：前回の理事会の結果を受けて、ユフロ国際委員会の投票に付した結果、forestryからforestに変更賛成47カ国、forestry維持8カ国であった。従って、ユフロは2000年大会からInternational Union of Forest Research Organizationと正式に改称されることになる。なお、forestry維持を強く主張したフガリ (名誉会員) のコメントによれば、forestryの前はforestだったという。

2) SylvaVoc活動について：Multilingual forest terminologyの構築に向けて、「鈴木さん、今後とも宜しくお願いします」と、日本に感謝の意を表するとともに、支援を名指しで依頼された。IUFRO-JとしてもSylvaVoc-Jとしても本格的に今後の取り組みが期待されている。現在、Terminology of Forest Managementの編集作業が行われていて、これは、1990年に出版されたVocabulary of Forest Managementの改訂作業である。そして、その後、Forest Terminologyの林業用語解説集の構築作業が引き続いて予定されている。

なお、このようなSylvaVoc活動についての詳細は、IUFRO-J News No. 59及びNo. 61を参照されたい。

3) データー・ベースについて：FAO, CIFOR, IPGRI, CABIのメンバーが参加して、WAICENT, AGRIS-CARIS, CABIなどのデーター・ベースについて紹介があった。ユフロとして、この様に沢山あるデーター・ベースを今後どう扱っていくかが課題である。

4) 財政の健全化について：ユフロの財政は、会費によるコア・ファンド、SPDCなどのプロジェクト・ファンド、そしてオーストリア政府からの支援や人材の派遣に伴う人件費など目に見えないその他ファンドに区分される。その比率は、3:8:不明である。比率は低くてもコア・ファンドの確保は大切であり、会員の滞納・退会を少なくすることについて熱心に議論がなされた。その対応は、滞納者を明確にして対処せよという積極派と、寛容が大切とする消極派に分かれた。因みに、現在のユフロの組織は、726機関、115カ国、8部門、11 Research Group (Research Unit), 195 Working Party (Working Unit)、会員数15,000人である。

5) 2000年世界大会について：テーマは“Forest, Society, and Role of Research”と決定。キーノート・スピーカーの一人には、スウェーデン国王の名前が候補に挙がった。会費はUS\$400と決定。各セッションのテーマと論文の質と量を如何に取り扱うかが今後の問題とされた。

6) ユフロの印刷物について：今後、ユフロの印刷物についてCABIなどのコマーシャル・パブリッシャーを検討することが諮られた。

何と言っても、ローマは永遠の都である。私は理事会終了後、エクスカージョンには参加せず、フィレンツェの国立研究所に立ち寄った。もう少しヨーロッパの歴史

を忘れないでいれば更に楽しい訪問になったことは間違いないなどとの思いを残してローマのレオナルド・ダビンチ空港を発ったのは、至る所警戒厳重なバーバ（ロー

マ法王）の出国と同じ日であった。

（写真-3 は FAO での第 36 回理事会参加者の記念写真）



写真-3 FAO での理事会メンバーの記念写真

右端はバーレー会長，女性を挟んで左にハチャリック FAO 林業部長，その左にウィットモア副会長，最上段左はモランディニ名誉会員，直ぐ下は筆者，一人挟んで右にスザロ SPDC コーディネーター，その右にセペーラ副会長，上段右から 3 人目のワイシャツ姿はシュミッツェンホフファー事務局長

これからの研究集会予定 (IUFRO ホームページ

(http://iufro.boku.ac.at/iufro/meetings/) より, 1997. 9. 27 現在)

IUFRO 研究集会

Division 1 造林

1.07.05 (熱帯雨林の天然更新); 8.01.04 (熱帯・亜熱帯森林生態系); SPDC: Tropical Secondary Forests: Science, People and Policy (熱帯2次林: その科学, 人々と政策)/Nov 10-12 1997, Turrialba, Costa Rica

1.17.00 (荒地回復): Society for Ecological Restoration: Symposium on Tropical Forest Restoration (熱帯林回復に関するシンポジウム)/Nov 12-15 1997, Fort Lauderdale Florida, USA

1.05.08 (天然林の更新); 1.05.14; 1.05.15: Silvicultural Problems in the Mediterranean Mountains (地中海地方山地における造林問題)/? 1998, Calabria, Italy

1.07.00 (熱帯造林): Workshop and Study Tour on Silviculture of Mixed Species Forests in the Sub-tropical Himalaya (亜熱帯ヒマラヤにおける混交林造林に関するワークショップ及び見学旅行)/April 1998, Bhutan

1.13.00 (森林植生管理): 3rd International Vegetation Management Conference-Forest Vegetation & Ecosystem Sustainability (第3回国際植生管理会議-森林植生と生態系の持続性)/Aug 24-28 1998, Sault Ste. Marie, Ontario, Canada

Interdivisional Meeting Div. 1,4,6 and 8: Forest Ecosystems and Land Use in Mountain Areas (山地帯の森林生態系と土地利用)/Oct 12-17 1998, Seoul, Korea

Division 2 生理および遺伝

2.09.00 (P2.04-00) (種子生理と技術): Innovations in Tree Seed Science & Nursery Technology (樹木種子と苗畑における技術革新)/Nov 22-25 1997, Raipur, India

2.02.19 (ラジアータ松の産地と育種): Pinus radiata Breeding and Genetic Resources (ラジアータ松の育種と遺伝資源)/Dec 1-4 1997, Rotorua, New Zealand

2.04.07 (体細胞遺伝): The Indian Society of Tree Scientist; Dr YS Parmar Univ. of Horticulture & Forestry: Micropropagation and Spread of Geneti-

cally Superior Material of Forest Trees (遺伝的に優れた森林樹木の組織培養と普及)/Apr 10-13 1998, New Dehli, India

2.01.13 (根の生理と共生): The Supporting Roots-Structure and Function (支持根: 構造と機能)/Jul 20-24 1998, Bordeaux, France

All-Div. 2 Conference; FAO: Forest Genetics and Tree Improvement on the Threshold of its Second Century (次世紀の遺伝資源と樹木改良)/Aug 22-28, Beijing, China

2.04.08 (細胞遺伝学): Cytogenetics (細胞遺伝学)/Sep 6-12 1998, Graz, Austria

2.08.04 (ポプラ, ヤナギの育種と遺伝資源); INRA: IUFRO International Poplar Symposium-IPS II (国際ポプラ・シンポジウム)/Sep 14-18 1998, Orleans, France

Division 3 森林作業と技術

3.07.00 (労働科学); Federal Univ. of Vicosa: Timber Harvesting and Forest Transportation (収穫作業と輸送)/Dec 9-12 1997, Victoria, Brazil

3.07.00 (P3.03-00) (労働科学); S3.06.00; 3.11.00 (P3.08-00); FAO: Forestry Work (林業労働)/? 1997, Concepcion, Chile

FAO/ECE/ILO; 3.07.00 (P3.03-00) (労働科学); S 3.04.02: Working Conditions and Increasing Profit (作業環境と収益の増加)/? 1997, Eastern Europe

3.11.01 (P3.08.01) (林業作業に起因する環境インパクト): Open Theme ()/June 1998, Congo

3.09.00 (間伐の経済学と収穫): Meeting on Management Alternatives of Thinning Stands from Harvesting and Economical Point of View (収穫及び経済学的観点からみた間伐林管理に関する会議)/Sep 1998, Ireland

3.11.01 (P3.08.01) (林業作業に起因する環境インパクト): Soil, Tree and Machine Interactions, Part 2 (土壌, 樹木と機械の相互関係 Part 2)/Sep 1998, Germany

3.02.03 (苗畑作業): Nursery and Stand Establishment Operations for Difficult Sites (II) (困難地のた

めの苗畑・森林造成作業)/Oct 19-23 1998, Arusha Tanzania

3.06.00 (山岳地での林業作業): The International Mountain Logging and 10th Pacific Northwest Sky-line Symposium (山岳地での伐採に関する国際シンポジウム)/March 1999, Covallis, Oregon USA

3.02.03 (苗畑作業): Auburn Univ. School of Forestry: The Interaction between Seedling Stock Size and Plantation Silviculture and Productivity (苗木サイズ, 人工造林および生産性の相互作用)/1999 後半, Auburn Alabama USA

Division 4 資源調査, 成長, 収穫, 計量経営科学

4.01.00 (測定, 成長および収穫量); 4.02.00 (森林資源調査とモニタリング); 4.11.00 (統計方法, 数学, コンピュータ); 4.12.00 (リモセン, GIS); 他: 3rd International on Spatial Accuracy Assessment in Natural Resources and Environmental Sciences (天然資源環境学における空間把握に関する国際シンポジウム)/May 20-22 1998, Quebec, Canada

4.01.09 (森林成長と材質予測のためのプロセス・モデル); 2.01.15 (植物生理): Process-Based Models for Forest Management (森林管理のためのプロセス・モデル)/Aug 30-Sep 3, 1998, Rovaniemi and Saariselka, Finland

Interdivisional Meeting Div.1,4,6 and 8: Forest Ecosystems and Land Use in Mountain Areas (山地帯の森林生態系と土地利用)/Oct 12-17 1998, Seoul, Korea

4.02.05 (リモセンと世界資源モニタリング); 4.12.00 (リモセン, GIS); 8.05 (森林火災研究): Remote Sensing and Forest Monitoring (リモセンと森林モニタリング)/Jun 1-3 1999, Warsaw, Poland

Division 5 林産物

5.01.00 (材質): The Influence of Microfibril Angle to Wood Quality (材質に対するミクロフィブリル傾角の影響)/Nov 21-25 1997, Westport, New Zealand

5.01.04 (材質の生物的改善): Connction between Silviculture and Wood Quality through Modelling Approaches and Simulation Software (モデル化とシミュレーションによる造林と材質の連携)/Sep 5-12 1999, Southern France

Division 6 社会, 経済, 情報および政策科学

6.07 (森林史); 6.07.02 (歴史的木材取引); Academia Italiana di Scienze Forestali: History and Forest

Resources (歴史と森林資源)/May 18-23 1998, Florence, Italy

6.16.00 (セクター分析): Global Concerns for Forest Utilization: Its Sustainable Management and Consumption (国際社会における環境保全と森林資源利用の計量分析国際シンポジウム)/Oct 5-9 1998, Miyazaki, Japan

Interdivisional Meeting Div.1,4,6 and 8: Forest Ecosystems and Land Use in Mountain Areas (山地帯の森林生態系と土地利用)/Oct 12-17 1998, Seoul, Korea

All Div.6 Meeting: Contributions of Science to the Development of Forest Policies (森林政策の進歩に対する科学の貢献)/Jan 7-15 1999 Pretoria, South Africa

Division 7 森林の健全性

7.02.02 (S2.06-02 and S2.06-04) (葉および新芽の病害): Working Party Meeting (ワーキングパーティー会議)/? 1997, Newfoundland, Canada

7.02.06 (森林衰退における病害と環境の相互作用): Complex Diseases in Forest Trees (林木における複合病害)/Mar 16-21 1998, Vienna, Austria

7.04.00 (大気汚染の森林生態系への影響): 18th International Meeting for Specialis in Air Pollution Effects on Forest Ecosystems (大気汚染の森林生態系への影響に関する専門家会議)/Sep 21-23 1998, Edinburgh, UK

7.00.00 (森林の健全性): ICPP Forest Pathology Group Forestry Agency of Japan: Symposium on Sustainability of Pine Forests in Relation to Pine Wilt and Decline (マツの枯損・衰退との関係からみたマツ林の持続性に関するシンポジウム)/Oct 26-30 1998, Tokyo Japan

Division 8 森林環境

8.01.04 (熱帯・亜熱帯森林生態系); 1.07.05 (熱帯雨林の天然更新); SPDC: Tropical Secondary Forests: Science, People and Policy (熱帯2次林: その科学, 人々と政策)/Nov 10-12 1997, Turrialba, Costa Rica

8.03.02, UNESCO, FAO/EFC, IAHR, IECA, WASWC, IAHS: Headwater Control IV: Hydrology, Water Resources and Ecology in Headwaters (源流域管理 その4: 源流域における水文学, 水資源と生態)/April 20-23 1998, Meran/Merano, Northern Italy

European Forestry Commission ; Working Party on the Management of Mountain Watersheds, IUFRO 8.04 (自然災害): FAO/IUFRO Joint Symposium (FAO/IUFRO 合同シンポジウム)/May 4-8 1998, Marienbad, Czech Republic

8.03.02 (森林水文): Forest and Water (森林と水)/May 25-29 1998, Cracow, Poland

8.04.01 (渓流侵食とその抑制); 8.04.05 (災害予知マッピング): International Workshop on Hazard Mapping in Torrent Watersheds (豪雨流域での災害予知マッピングに関する国際ワークショップ)/Jun 15-18 1998, Salzburg, Austria

8.03.00 (環境影響); 8.03.04 (森林への風のインパクト): Wind and Other Abiotic Risks to Forests (風及び他の無機環境の森林への危険性)/Aug 10-14 1998, Joensuu, Finland

Interdivisional Meeting Div.8 and 8.01.00 (生態系): Forest Ecosystem and Land Use in the Mountain Areas (山地帯における森林生態と土地利用)/Oct 12-17 1998, Seoul, Korea

All Div.8 Conference: Environmental Forest Science (環境森林科学)/Oct 19-23 1998, Kyoto, Japan

8.04.01 (渓流侵食とその抑制): Debris Flow Management-Woody Debris Management (土石流管理-木質流管理)/Oct 19-23 1998, Kyoto, Japan

8.04.01 (渓流侵食とその抑制); 8.04.05 (災害予知マッピング): Prevention of Natural Disasters, Environmental Aspects (自然災害予知-環境的視点)/Oct 19-23 1998, Kyoto, Japan

8.05 (森林火災研究); 4.02.05 (リモセンと世界資源モニタリング); 4.12.00 (リモセン, GIS): Remote Sensing and Forest Monitoring (リモセンと森林モニタリング)/Jun 1-3 1999, Warsaw, Poland

8.02.05 (人工林における生産性の維持・改善): EMBRAPA; SIF-Univ. Federal de Vicosa; IPEF-Univ. de San Paulo: Sustainability in Plantation Forests (人工林の持続性)/Sep 1999, Southern Region of Brazil

Other Meetings その他集会

SPDC

SPDC; 1.07.05 (熱帯雨林の天然更新); 8.01.04 (熱帯・亜熱帯森林生態系): Tropical Secondary Forests: Science, People and Policy (熱帯2次林: その科学,

人々と政策)/Nov 10-12 1997, Turrialba, Costa Rica

SPDC; BIO-REFOR; Japan ODA; The Univ. of Queensland; Queensland Forestry Research Institute: Overcoming Impediments to Reforestation—International Workshop on Tropical Forest Rehabilitation in Asia-Pacific Region (再造林にむけて克服すべき障害—アジア太平洋地域における熱帯林再生に関する国際ワークショップ)/Dec 2-9 1997, Brisbane and Gympie, Australia

Task Force Meeting

Task Force on Sustainable Forest Management: International Sustainability Conference/Aug 24-28 1998, Australia

Congreso Latinoamericano IUFRO: Sustainable Management of Forest Resources: Challenge of the XXI Century/Nov 22-28 1998, Valdivia, Chile

CIFOR; USAID: International Workshop on the Management of Secondary Forests in Indonesia (インドネシア2次林の管理に関する国際ワークショップ)/Nov 17-19 1997, Bogor, Indonesia

Centre Medical A.M.I. Programme; International Symposium on Health, Productivity and Development (健康, 生産性と発展に関する国際シンポジウム)/Nov 24-25 1997, Abidjan, Cote d'Ivoire

Tropenbos Foundation: Research in Tropical Rain Forest—Its Challenges for the Future (熱帯降雨林研究-その将来展望)/Nov 25-26 1997, Wageningen, Netherlands

NNA; 他: Forum "Forests and Energy" (フォーラム「森林とエネルギー」)/Jan 16-20 1998, Schneverdingen, Germany

Vietnam National Univ.; Univ of Queensland; ACIAR: Workshop on Leucaena - Adaptation, Quality and Farming Systems (ギンゴウカン属に関するワークショップ)/Feb 9-14 1998, Hanoi, Vietnam

Foundation for Revitalisation of local Health Association: International Conference on Medicinal Plants Conservation, Utilisation, Trade and Cultural Traditions (薬用植物の保全, 利用, 取引と文化に関する国際会議)/Feb 16-20 1998, Bangalore, India

Tall Timbers Research Station: 21st Fire Ecology Conference Fire and Forest Technology (第21回火災生態学会議)/Apr 14-16 1998, Tallahassee, Florida,

USA

International Seed Testing Association : 25th International Seed Testing Congress (25 回国際種子検定会議)/Apr 15-24 1998, Pretoria, South Africa

FAO/ECE/ILO Committee : Seminar on Forestry Training for Target Groups that are Hard to Reach (到達困難な目標に対する林業訓練に関するセミナー)/Apr 20-24 1998, La Bastide des Jourdans, France

INTECOL : Italian Society of Ecology, Regional Government of Tuscany : International Congress on Ecology (第 7 回国際生態学会)/Jul 19-25 1998, Florence, Italy

British Society for Plant Pathology : 7th International Congress of Plant Pathology (第 7 回国際植物病理学会)/Aug 9-16 1998, Edinburgh, UK

ISSS : 16th World Congress of Soil Science (第 16 回国際土壌科学会議)/Aug 20-26 1998, Montpellier, France

FAO/ECE/ILO Committee : Seminar on Improving Working Conditions and Increasing Productivity in Forestry (林業における労働条件の改善と生産性増大に関するセミナー)/Sep 9-11 1998, Banska Stivnica, Slovakia

Univ. of Philippines at Los Banos ; Dept. of Environmental and Natural Resources ; Dept. of Science and technology : Tropical Forests and Climate Change (熱帯林と気候変動)/Oct 19-22 1998, Makati, Philippines

ADAI : 3rd International Conference on Forest Fire Research (第 3 回森林火災に関する国際会議)/Nov 1998, Luso-Coimbra, Portugal

IUBS ; IABMS : XVI International Botanical Congress (第 16 回国際植物学会議)/Aug 1-7 1999, St. Louis, Missouri, USA

Ukrainian State Univ. of Forestry and Wood Technology : Forest Education and Science on the Border of the XXI Century (21 世紀初頭における森林教育と科学)/Sep 12-19 1999, Lviv, Ukraine

<IUFRO-J News への寄稿のお願い>

会員の皆様のご協力により「IUFRO-J News」の発行も順調に進んで参りました。これからもニュースの内容を充実させるために、IUFRO の研究集会などの開催予定や参加した集会の内容紹介など、会員に広く知らせたい事柄について記事をお寄せください。また、研究集会などに参加予定、または参加された方を紹介いただければ、事務局から執筆のお願いをすることもできます。会員相互の情報交換の場として「IUFRO-J News」をどうぞご活用ください。

(事務局)

事務局 受付年月日：_____

整理番号：_____

IUFRO 関連研究集会事務局・参加助成申請書

助成区分：事務局 参加 （どちらかに○）

応募者氏名（事務局の場合は代表者）：

_____ 年齢（ ）

所 属：

連絡先：〒 _____

TEL/FAX _____

E-mail _____

研究集会名：

開催時期・場所：

集会規模：（概数）

IUFRO との関連：（例 第 x ワークショップまたはシンポジウム）

助成金の主な用途（事務局の場合）

発表題目（研究集会参加の場合）

過去の海外発表経験の有無（研究集会参加の場合）

〔事務局からのお願い〕

・関連資料（発表申込、集会案内のコピーなど）を添付してください

・この様式をコピーして使って下さい。

IUFRO-J 事務局報告

1. IUFRO 関連研究集会助成

6 月末現在で集計した結果、事務局：2 件、研究発表：9 件の合計 11 件の応募がありました。

7 月 10 日に選考委員会を開催し、以下の事務局：1 件、発表：3 件を助成することにしました。

氏 名 (所属)

事務局 村嶋 由直 (京都大)

研究発表 富田文一郎 (筑波大)

長谷川絵里 (森林総研)

生方 正俊 (北海道育種場)

今年度の助成は上記 4 件とし、12 月末集計分 (1 月に選考委員会開催予定) については、来年度予算で計画する予定です。

募集は随時受け付けておりますので、応募要領に従って、事務局へ応募してください。

2. SylvaVoc-J 委員会

日 時：9 月 4 日 10:30~12:00

場 所：東京大学農学部林学会議室

出席者：鈴木和夫、小林富士雄、藤森隆郎、齊藤昌宏

勝田 柁、井出雄二、小林洋司、箕輪光博

内藤健司、木平勇吉、永田 信、古田公人

執印康裕 (太田猛彦、鈴木雅一代理)

森貞和仁

鈴木委員長から、SylvaVoc プロジェクトの進捗状況に関する報告に引き続き、現在国内では、SylvaVoc プロジェクトのほかに「林学検索用語集」改訂作業 ((財) 林学会) および「林業百科事典」改訂作業 (日本林業技

術協会) が行われていることが紹介され、これらの作業を連携させて林業用語のデータベースを構築することが望ましいとする委員長見解が示されました。

SylvaVoc プロジェクトの国内作業には日本林学会と日本木材学会が参画しており、扱う用語の範囲が多岐にわたるため、分野別の責任者を決めて対応することが提案され、了承されました。

そして、IUFRO 部会に即して、会議出席者から各分野の取りまとめ者の人選を行い、以下のように決定いたしました。

今回の会議出席者が日本林学会関係者でしたので、第 5 部会に関しては、日本木材学会担当者も取りまとめ者に加えることを事務局から報告しました。

また、第 4 部会については、先行している Terminology of Forest Management 対応グループ (内藤健司氏代表) との連携をお願いすることにしました。

今後、SylvaVoc-J 事務局は、本部から送付される検討材料を、各取りまとめ者に配布し、作業をお願いします。全体調整は事務局で行います。

3. 監査 (欠員) の補充

4 月の機関代表会議で指摘されました監査の欠員補充について事務局で人選をおこない、三國 昇氏 (林業科学技術振興所) をお願いすることにいたしました。

今後、監査は照井靖男氏 (日林協)、三國 昇氏の 2 名の方々で行われます。

(文責：森貞和仁)

SylvaVoc-J 分野別取りまとめ者

学 会	部会 (主分野)	氏 名 (所 属)
林学会	Div. 1 (造林)	藤森隆郎 (森林総研)
	Div. 2 (育種)	井出雄二 (東京大)
	Div. 3 (利用)	小林洋司 (東京大)
	Div. 4 (経理)	箕輪光博 (東京大)
	Div. 5 (林産)	志水一充 (森林総研)
	Div. 6 (林政)	永田 信 (東京大)
	Div. 7 (保護)	古田公人 (東京大)
	Div. 8 (環境)	鈴木雅一 (東京大)
木材学会	Div. 5 (木材)	藤井智之 (森林総研) 松本雄二 (東京大)

IUFRO-J News No. 62 平成 9 年 10 月 31 日
 国際林業研究機関連合日本委員会事務局
 茨城県稲敷郡茅崎町松の里 1 森林総合研究所内
 TEL 0298-73-3211 (ex232) FAX 0298-73-1541
 [編集・発行]